

エコアクション21

# 環境経営レポート

## ミヨシ精機工業株式会社

1. 組織の概要及び対象範囲	P.2
2. 実施体制	P.3
3. 環境経営方針	P.4
4. 環境経営目標	P.5
5. 環境経営計画	P.6
6. 環境経営目標の実績及び環境経営計画の取組結果、その 評価、並びに次年度の取組内容	P.7
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、 並びに違反、訴訟等の有無	P.8
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	P.8

運用期間：2023年4月1日 ～ 2024年3月31日

発行日：2024年5月20日

# 1.組織の概要

・事業所名 ミヨシ精機工業株式会社

・代表者氏名 田中 謙一郎

・所在地 東京都練馬区上石神井4-10-39  
長野県上田市塩川5103-3

・環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 小松 聖

担当者 柄澤 努

連絡先 長野丸子工場

TEL 0268-36-4600

FAX 0268-36-4601

E-mail [s-asahina@miyosho.co.jp](mailto:s-asahina@miyosho.co.jp)

・サイト名称及び所在地

本社 東京都練馬区上石神井4-10-39

長野丸子工場 長野県上田市塩川5103-3

・事業活動の内容

カメラ等の光学機器、複写機及びプリンター等のOA機器、自動車の  
保安系部品等の精密さを要求される金属部品の加工製造。

・事業規模

売上 976,000千円

従業員 60 名

工場敷地(床面積)

本社 116.13m<sup>2</sup>

工場 2152.64m<sup>2</sup>

対象範囲(認証・登録範囲)

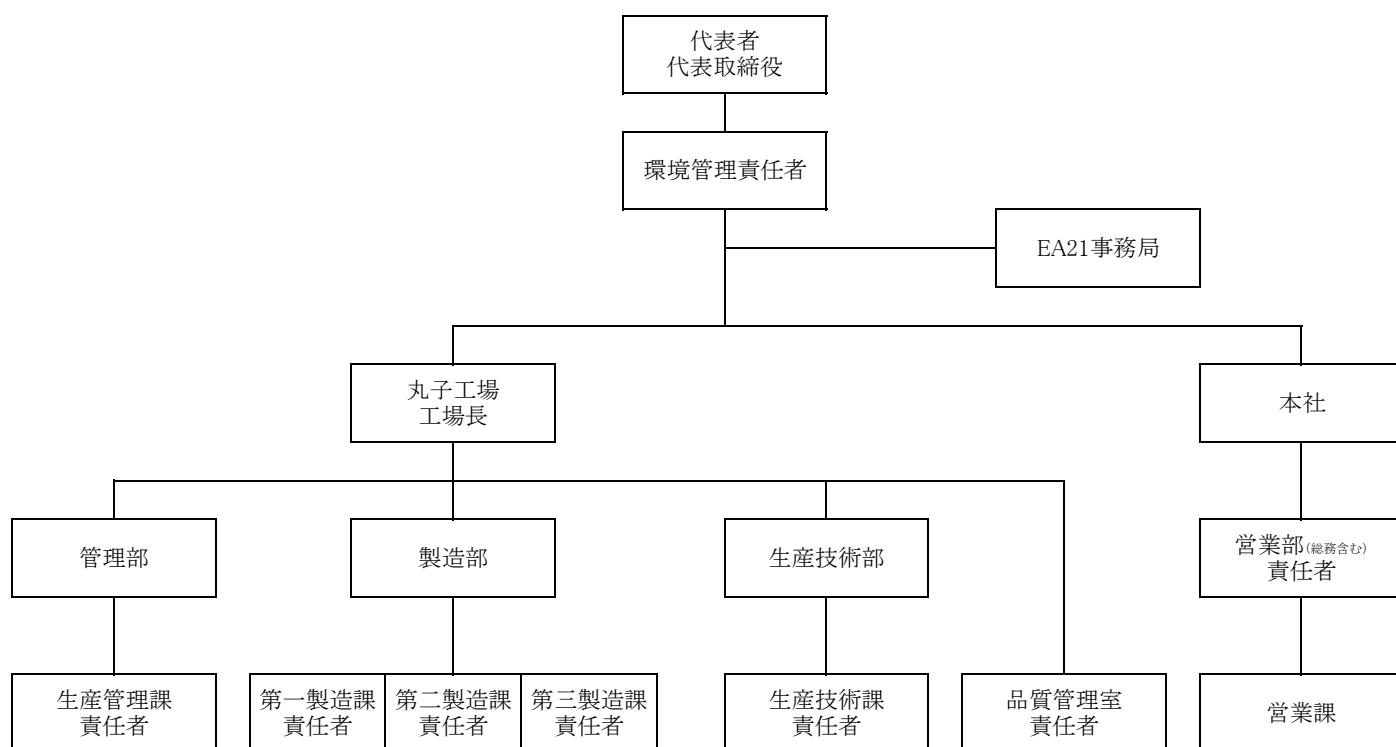
認証登録対象組織

本社、長野丸子工場

認証登録対象活動

カメラ等の光学機器、複写機及びプリンター等のOA機器、自動車の  
保安系部品等の精密さを要求される金属部品の加工製造。

## EA21役割責任体系図



	役割・責任・権限
代表者	1.環境管理責任者の任命 2.環境方針の策定、制定、周知 3.環境経営システムの実施及び、管理に必要な資源の準備 4.環境経営システムの定期的見直しの実施 5.社内情報の外部公開可否決定 6.環境レポートの承認 7.経営における課題とチャンスを整理し、明確にする
工場長	1.上記、代表者の補佐及び不在時の代理執行
環境管理責任者	1.環境経営システムの確立、実施、維持、継続的改善 2.社長への環境経営システムの実施状況報告 3.EA21事務局との連携 4.各部門への環境教育の計画、実施 5.関連法規の取りまとめ表の承認 6.環境関連文書及び記録の承認
EA21事務局	1.環境管理責任者の補佐 2.環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 3.環境目標、環境活動計画書原案の作成 4.環境活動の実績集計、環境関連法規等取りまとめ表の作成 5.環境関連法規等、取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 6.環境関連の外部コミュニケーションの窓口、環境活動レポートの作成
部門責任者	1.自部門従事者に対して環境方針の周知、緊急事態に対する周知 2.関連する環境活動計画の実施、達成状況の報告 3.特定された項目の手順書作成及び、運用管理 4.自部門で想定された緊急事態への対応手順書作成、訓練の実施 5.自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
部門従事者	1.環境方針を理解し、部門の環境活動計画に従って行動する

# 環境経営方針

## 【企業理念】

当社は、地球環境保全の重要性を認識し、精密金属部品の製造を主とする事業活動を行う中で環境への配慮と環境汚染の予防に努め、地球にやさしい「ものづくり」に真摯に取り組み、地域だけではなく日本の未来の発展に寄与する企業として行動していきます。

## 【行動指針】

### 1. 環境負荷の低減を図るため、以下の活動に取り組みます。

(1) 省エネ（電気、燃料）を推進し

(2) 廃棄物の排出量を削減します。

二酸化炭素の排出量を削減します。

(SDGs 項目 12・14・15)



(3) 水の使用量を削減します。

(4) 化学物質を適正に管理します。

(SDGs 項目 6・14)

(SDGs 項目 4・12・14・15)



(5) グリーン購入を推進します。

(6) 5S 活動及び品質管理をリンクさせ、

(SDGs 項目 6・14)

環境に配慮した「ものづくり」を推進します。



### 2. EA21 環境経営システムを構築・運用し

### 3. 事業活動にあたっては環境関連法規等を

環境への取り組みを継続的に行います。

遵守します。



### 4. 環境経営方針はすべての従業員に周知します。



2020年3月25日

ミヨシ精機工業株式会社

田中 謙一郎

## 4.環境経営目標

※数値目標は売上按分にて集計

環境経営目標	基準(実績)	CO2換 算係数	中期目標		
	2019年度 2019年4月～ 2020年3月		2021年度 2021年4月～2022年3月	2022年度 2022年4月～2023年3月	2023年度 2023年4月～2024年3月
1. 二酸化炭素 排出量の削減	7.312 kg-CO <sub>2</sub> /10K円		0.5%削減 7.275 kg-CO <sub>2</sub> /10K円	1%削減 7.239 kg-CO <sub>2</sub> /10K円	1.5%削減 7.202 kg-CO <sub>2</sub> /10K円
1.1 電力使用量 の削減	13.965 kWh/10K円	0.500	0.53%削減 13.892 kWh/10K円	1.05%削減 13.818 kWh/10K円	1.57%削減 13.745 kWh/10K円
	6.982 kg-CO <sub>2</sub> /10K円		6.946 kg-CO <sub>2</sub> /10K円	6.909 kg-CO <sub>2</sub> /10K円	6.873 kg-CO <sub>2</sub> /10K円
2.1 一般廃棄物 排出量の削減	0.037 kg/10K円		0.5%削減 0.0368 kg/10K円	1%削減 0.0366 kg/10K円	1.5%削減 0.0364 kg/10K円
2.2 産業廃棄物 排出量の削減	0.765 kg/10K円		0.5%削減 0.761 kg/10K円	1%削減 0.758 kg/10K円	1.5%削減 0.754 kg/10K円
6.R社の客先ク レーム件数低減	4 件		3 件以下	3 件以下	3 件以下

注(1)基準年度購入電力のCO<sub>2</sub>排出係数:0.500 kg-CO<sub>2</sub>

注(2)産廃: 廃プラ、廃油(水溶性)、廃木、アルミスケール汚泥、研掃材モランダム～マニフェスト発行。

注(3)PRTR法に該当する化学物質は使用していません。

注(4)項目6. R社の客先クレーム件数低減の基準については、2018年～2020年の平均数値で設定。

注(5)一般廃棄物:「可燃ごみ」のみ。リサイクル、再資源化するものは含まない。(2022.5.18追記)

注(6)電力使用量:「工場電力」のみ。「本社電力」は含まない。(2022.5.18追記)

# 5.環境経営計画・実施状況評価

基準年度(基準値):2019年4月～2020年3月

年0.5%削減

□:計画 ■:実績 評価:達成○ 未達×

No.	中期目標 (2023年度)	2023年度目標	施策	責任者	2022年												合計	
					4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
1	二酸化炭素排出量の削減(kg-CO2/10K円) ※売上按分 基準値:2019年度(通年) 7.312 2021年度から2023年度 1.5%削減 7.202	基準値 7.312kg/10K円 ↓ 1.5%削減 7.239kg/10K円	*1.1に記載	小松	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
					計画排出量	7.944	5.081	5.014	7.161	7.903	7.556	6.859	6.605	7.052	9.620	8.306	12.327	7.239
					実績排出量	4.609	6.258	5.229	6.074	5.010	6.077	5.772	6.326	0.350	0.706	0.647	0.423	3.928
					評価	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1.1	電力使用量の削減(kwh/10K円) ※売上按分 基準値:2019年度(通年) 13.965 2021年度から2023年度 1.57%削減 13.745	基準値 13.965kwh/10K円 ↓ 1.57%削減 13.745kwh/10K円	コンプレッサの効率的稼働 ・エア漏れ箇所(機械、エアガン、配管)の修理、修繕。 ・機械(研磨機)へのエア供給部にバルブを取り付け、非稼働時にエア供給を止める。 ・既存エアホースを耐久性の高いホースに交換。 ・夜勤終了時(毎日) コンプレッサの点検	鈴木	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
					計画使用量	14.714	9.919	9.876	13.995	15.496	14.775	13.474	12.691	12.908	17.682	15.046	23.413	13.818
					実績使用量	9.322	12.593	10.519	12.280	10.116	12.260	11.660	12.529	11.841	12.850	11.475	10.402	11.435
					評価	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2.1	一般廃棄物排出量の削減(kg/10K円) ※売上按分 基準値:2019年度(通年) 0.037 2021年度から2023年度 1.5%削減 0.036	基準値 0.037kg/10K円 ↓ 1.5%削減 0.036kg/10K円	・廃棄物の分別と確認 ・リサイクル化出来るもの検討と運用 *注意喚起の表示を作成掲示 *機密文書の定義と処理方法を再検討	朝比奈	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
					計画使用量	0.042	0.038	0.020	0.024	0.035	0.056	0.039	0.033	0.026	0.061	0.034	0.052	0.037
					実績使用量	0.030	0.025	0.035	0.020	0.025	0.035	0.024	0.020	0.025	0.030	0.018	0.034	0.026
					評価	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2.2	産業廃棄物排出量の削減(kg/10K円) ※売上按分 基準値:2019年度(通年) 0.765 2021年度から2023年度 1.5%削減 0.754	基準値 0.765kg/10K円 ↓ 1.5%削減 0.754kg/10K円	・廃プラの産廃業者を変更し、正確な排出重量を把握する。(マニフェストは発行されるが、分別を変えることで再利用可能)	小松	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
					計画使用量	1.078	0.529	0.615	0.623	0.759	0.908	0.663	0.859	0.629	0.824	0.705	1.323	0.758
					実績使用量	0.537	0.337	0.501	0.177	0.472	0.489	0.413	0.482	0.574	0.429	0.432	1.159	0.494
					評価	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	R社クレーム件数低減(件数) 基準値:2018年度～2020年度平均 4 2021年度から通年 3件以下	基準値 4件 ↓ 3件以下	・工程内寸法チェックの強化 ※チェックシート作成 ・セルフチェック作業 ・セルフチェックポイントの標準化	政木 金井 山崎	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
					計画件数	1以下	0以下	0以下	0以下	1以下	0以下	0以下	0以下	1以下	0以下	0以下	0以下	3以下
					実績件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
					評価	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
NO.	評価・確認 月日	評価・確認者	評価・確認事項(定期・臨時)	コメント														

## 6.環境経営目標の実績及び環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

運用期間:2023年4月～2024年3月			評価: 達成○ 未達×			取組	
No.	環境経営目標	運用期間目標	施策	実績	評価	コメント	次年度の取組内容
1	二酸化炭素排出量の削減	売上按分にて 1.5%削減 7.312 kg-CO2/10K円 ↓ 7.202 kg-CO2/10K円	・1.1に記載	3.928 kg-CO2 /10K円	○	経営目標について、すべての項目で達成。1.1電力使用量削減での施策でもある。工場内のエアリー漏れ対策の実現により、コンプレッサーの効率的稼働の実現も要因の一つである。また、2023年12月よりCo2排出係数0電気への切り替えも功を奏した。	次項「電力使用量の削減」の取組を実行する。
1.1	電力使用量の削減	売上按分にて 1.57%削減 13.965kWh/10K円 ↓ 13.745kWh/10K円	・圧縮エアリーの漏れ点検(5月、8月、12月) ・コンプレッサーの休日停止(土曜日5時～月曜日6時) ・加工機を休日停止する為の体制作り(オペレータ育成)	11.435 kWh/10K円	○	5・6月に単月で実績が計画を上回ったが、年間では計画を達成できた。コンプレッサーの休日停止事項については、週末の夜勤終了時(9:00)に1台停止を実現できた。2024年3月に工場内の照明器具をLED化、今後の電力使用量削減への更なる効果に期待する。	・前年度活動の継続 工場内のエアリー設備について点検及び修理、改善。 ・各工場内の室温適正化 工場内外の遮熱、断熱及び空気循環などを検討、検証し空調設備の効率的稼働、室温の適正化且つ使用量削減を目指す。
2.1	一般廃棄物排出量の削減	売上按分にて 1.5%削減 0.0370kg/10K円 ↓ 0.0368kg/10K円	・廃棄物の分別と確認 ・リサイクル化出来るもの検討と運用 *注意喚起の表示を作成掲示 *機密文書の定義と処理方法を再検討	0.032 kg/10K円	○	単月で実績が計画を上回ったこともあったが、年間では達成できている。2023年に掲げた施策については、十分な活動ができなかったため、次年度も継続する。	前年度活動の継続及び、業務上使用した紙ベースでの書類、資料、などの分別徹底、処理を明文化する。
2.2	産業廃棄物排出量の削減	売上按分にて 1.5%削減 0.765kg/10K円 ↓ 0.754kg/10K円	・廃プラの産廃業者を変更し、正確な排出重量を把握する。 (マニフェストは発行されるが、分別を変えることで再利用可能)	0.442 kg/10K円	○	排出量削減についての目標は達成できている。取り組みについては、既存業者との調整が付き、次年度に持ち越しする。	昨年度の施策を具現化できなかったため、今年度も継続して活動する。 ・廃プラの分別、処理を検討して、排出重量の把握、リサイクル化を加速させる。 (マニフェストは発行されるが、分別を変えることで再利用可能) ・電子マニフェストへの移行。
6	R社クレーム件数低減(件数)	4件 ↓ 3件以下	・工程内寸法チェックの強化 ※チェックシート作成 ・セルフチェック作業 セルフチェックポイントの標準化	0件	○	昨年度同様、流出防止から発生防止の活動が主になり、客先品質が向上している。	品質向上が環境にも配慮できることを踏まえ、取組みを継続していく。

## 7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

適用される主な環境関連法規等は次のとおりである。

適用環境関連法規等	適用される事項(施設、物質、事業活動等)	状況
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物(金属クズ、廃プラ、廃油等)	○
騒音・振動規制法	コンプレッサー	○
水質汚濁防止法	排水	○
消防法(危険物)	少量危険物	○
フロン排出抑制法	エアコンの点検	○

環境関連法規等の遵守状況を確認し評価した結果、環境関連法規等への違反・訴訟はありませんでした。なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

## 8. 代表者による全体評価と見直しの結果

### 全体評価と指示内容

2023年度、月によって多少の変動があったものの、売上は昨年度に引き続いて堅調に推移した。取り組み結果については、エネルギー使用量目標未達成月があったものの、年間を通しては管理項目全てにおいて削減目標を達成し、Co2排出量についても2023年12月よりノンカーボン電力へ切り替えたことが目標達成の大きな要因となった。そして、2024年3月からは工場内全蛍光灯をLED照明に切り替えたことで、更なるエネルギー使用量・Co2削減効果を期待しています。

エネルギー事情の不安定さやエネルギー価格の高騰が声高に叫ばれるようになった昨今、社会全体で省エネルギー化への重要性が高まっている。その中で、「モノづくり」の生産現場では効率的且つ省エネを基本とした生産体制の継続的構築、そしてそれをどう維持していくかが最も重要となります。

課題解決のためにまずは従来からの施策やルール、管理方法などを再確認し、それらを全社内徹底することが、結果として持続可能な世の中にしていく一助となるでしょう。

昨年度もコメントしましたが、廃棄物の分別徹底は基より、排出量自体が削減する生産プロセスも多角的に見直し、検討をしてください。

最後になりますが、近年様々な環境問題、特に気候変動による自然災害が地球規模で発生しています。規模は小さくとも、環境問題について真摯に取り組むことが、様々な社会貢献に繋がると思います。これらを念頭に置いて、今後も活動を推進していきましょう。



## 9. 中期目標

※数値目標は売上按分にて集計

環境経営目標	基準(実績)		中期目標		
	2023年度	CO2換算 係数	2024年度	2025年度	2026年度
	2023年4月～2024年3月		2024年4月～2025年3月	2025年4月～2026年3月	2026年4月～2027年3月
1. 二酸化炭素排出量の削減	3.928 kg-CO <sub>2</sub> /10K円		0.5%削減 3.908 kg-CO <sub>2</sub> /10K円	1%削減 3.889 kg-CO <sub>2</sub> /10K円	1.5%削減 3.869 kg-CO <sub>2</sub> /10K円
1.1 電力使用量の削減	11.435 kWh/10K円 3.681 kg-CO <sub>2</sub> /10K円	0.500	0.5%削減 11.378 kWh/10K円 3.661 kg-CO <sub>2</sub> /10K円	1%削減 11.321 kWh/10K円 3.642 kg-CO <sub>2</sub> /10K円	1.5%削減 11.263 kWh/10K円 3.623 kg-CO <sub>2</sub> /10K円
2.1 一般廃棄物排出量の削減	0.0370 kg/10K円		0.5%削減 0.0368 kg/10K円	1%削減 0.0366 kg/10K円	1.5%削減 0.0364 kg/10K円
2.2 産業廃棄物排出量の削減	0.765 kg/10K円		0.5%削減 0.761 kg/10K円	1%削減 0.758 kg/10K円	1.5%削減 0.754 kg/10K円
6.R社の客先クレーム件数低減	2 件		1 件以下	1 件以下	1 件以下

注(1) 購入電力のCO<sub>2</sub>排出係数:0.502 kg-CO<sub>2</sub>。

注(2) 産廃: 廃プラ、廃油(水溶性)、廃木、アルミスケール汚泥、研掃材モランダム～マニフェスト発行。

注(3) PRTR法に該当する化学物質は使用していません。

注(4) 2020年度は新型コロナウイルス感染拡大により、変則的な生産稼働となり実績にバラツキがあった。  
そのため、今回は2019年度を基準に削減目標を設定する。

注(5) 項目6. R社の客先クレーム件数低減の基準については、2018年～2020年の平均数値で設定。

注(6) 一般廃棄物: 「可燃ごみ」のみ。リサイクル、再資源化するものは含まない。(2022.5.18追記)

注(7) 電力使用量: 「工場電力」のみ。「本社電力」は含まない。(2022.5.18追記)